



歩のあゆみ

『平凡パンチ』から『アルネ』まで。ファッション&イラストレーション

タイムトンネルシリーズ Vol. 23 大橋歩イラストレーション展

2006年10月30日(月)―11月24日(金)
11:00a.m.―7:00p.m. (水曜日は8:30p.m.まで)
土・日・祝祭日休館 入場無料

第一会場:クリエイションギャラリーG8

creation
G8
〒104-8001 東京都中央区銀座8-4-17
リクルートGINZA8ビル1F TEL03-3575-6918

第二会場:ガーディアン・ガーデン

Guardian
Garden
PRODUCED BY RECRUIT
〒104-0061 東京都中央区銀座7-3-5
リクルートGINZA7ビルB1F TEL03-5568-8818
<http://www.recruit.co.jp/GG/>
<http://www.recruit.co.jp/corporate/mobile/>

主催:クリエイションギャラリーG8 ガーディアン・ガーデン



多摩美術大学油絵科在学中に描いた、『メンズクラブ』のイラストレーション(VANジャケット・石津祥介氏の頁)をきっかけに、1964年創刊の『平凡パンチ』の表紙を担当し、注目を集めた大橋歩。以後7年間、390冊におよぶ『平凡パンチ』の表紙の数々は、時代の空気をとらえ、若者文化をリードし続けてきました。

その後も、ピンクハウス(1980年～1990年)をはじめとする広告・雑誌の仕事や、ショップ「スタジアム」(1981年～1985年)での洋服・文具のグッズ制作など、イラストレーションの仕事の一方で、エッセイの執筆(1970年～)も数多く、著書は100冊を超えます。近年は、企画・編集から取材、撮影、出版まで、自身の手による季刊誌『Ame(アルネ)』(2002年～)を発行するなど、活動の場を広げ続けています。

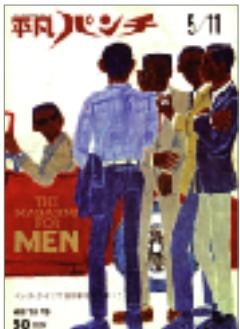
本展では、デビュー当時から現在にいたるまでを、二会場でご紹介します。クリエイションギャラリーG8では、『平凡パンチ』、ピンクハウスのイラストレーションと、雑誌『Ame(アルネ)』ができるまでを、ガーディアン・ガーデンでは、学生時代の習作、イラストレーションの仕事、展覧会出品作品やエッセイ本などを展示します。

歩のあゆみ

『平凡パンチ』から『アルネ』まで。ファッション&イラストレーション



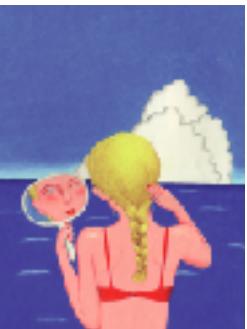
1



2



3



4



6



タイムトンネルシリーズ Vol. 23 大橋歩イラストレーション展

2006年10月30日(月)～11月24日(金)

11:00 a.m.～7:00 p.m. (水曜日は8:30 p.m.まで)
土・日・祝祭日休館 入場無料

主催: クリエイションギャラリーG8 ガーディアン・ガーデン

長いこと仕事をしているといいことがあるんですね。こんな大的な展覧会なんて、私には無縁と思っていましたから、とてもうれしい。でも、昔描いたのを出して見たら、よく塗れていると感心しながらも、下手だからほんとは恥ずかしい。こういう業界とは、離れていた格好悪い絵だから、それで心配になる。うれしいと恥ずかしいと心配がごちゃまぜのまま、どうぞよろしくと返事しました。なにしろ大的な展覧会ですから、お断りするのはもったいないもの。

大橋歩 Ayumi Ohashi
1940年三重県生まれ。多摩美術大学油絵科卒。1964年の『平凡パンチ』創刊から7年間、表紙のイラストレーションを担当。1980年から1990年まで、ファッションブランド、ピンクハウスのイラストレーションを描く。以後、数々の雑誌や広告に携わるほか、衣食住全般についてエッセイを執筆。『おしゃれは大事よ』、「おいしい毎日」(マガジンハウス)、「日々が大切」(集英社)など著書多数。2002年季刊誌『Ame(アルネ)』を創刊。企画・編集・出版まで一人で手がけている。

オープニングパーティー
10月30日(月) 7:00 p.m.-8:30 p.m.
両会場にて行います。
7:30 p.m.-8:00 p.m.は
クリエイションギャラリーG8にお集まりください。

第185回クリエイティブサロン:
日時: 11月15日(水) 7:10 p.m.-8:40 p.m.
ゲスト: 糸井重里 大橋歩
会場: クリエイションギャラリーG8
入場無料 要予約 (TEL 03-3575-6918)

大橋歩 インタビュー小冊子
今回の展覧会開催にあたり、幼少時代から現在にいたるまで、また、イラストレーションやエッセイ、雑誌作りに対する思いなど語っていただきました。A5サイズ モノクロ約60ページ 500円

タイムトンネルシリーズは、第一線で活躍する作家のデビュー当時から現在に至るまでの作品を紹介し、その発想や表現方法の原点を探ろうとする展覧会です。

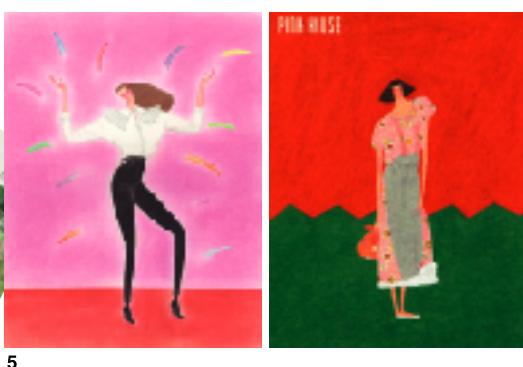


5 ピンクハウス 1980年～1990年

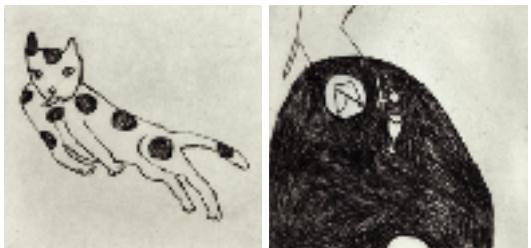
6 『Ame(アルネ)』 2002年～

7 村上春樹著『村上ラヂオ』 2001年

会場の都合により、お花はご遠慮させていただきます。



5



7

